

「COVID-19」研究会

総合人文科学研究センター研究部門
「COVID-19 を経験した社会の人文学」

2025 年度第 3 回研究会

COVID-19 を経験した社会の倫理学

日時：2025 年 10 月 24 日(金) 18:00 ～ 19:30

方法：Zoom を使用したオンライン開催

報告者：御子柴善之(本学教授)

コロナ禍の日本社会では、一方で、「亡くなる人をできる限り出してはならないという道徳」(磯野真穂)あるいは「救命数最大化の原則」(広瀬巖)が強い拘束力を伴いつつ語られたが、他方、貧困対策に参画している側からは「本当は、『一人も死なせない』という覚悟は、政治にこそ求められる」(雨宮処凛)という声も上がった。こうした状況下で、この社会で何がないがしろにされたのかを考える。それによって、最近の倫理学内部で聞かれる、「平時の倫理」に対して「有事の倫理」を考える必要がある、という主張に対して、限定的にせよ批判的な視点を提示してみたい。

付記：この研究会は公開で行われますので、どなたにもご参加いただけます。研究部門にご所属でない方は、10月23日(木)までに松永美穂研究室に参加希望をメールでお伝えください。URLをお届けいたします。

連絡先：松永美穂研究室 (mihom@waseda.jp)